

賃金実態調査中間結果

現在実施中の賃金実態調査の中間集計ができましたので報告します。
まだ調査表を出していない組合員は早めに出してください。

< 回答者の平均像 >

年齢 39.8 歳	本給額 382,444 円
扶養手当額 21,995 円	扶養者数 2.3 人
最近数ヶ月の超過勤務手当 48,166 円	

ひとところよりは緩和されたものの、ガソリン代が値上がりして不満の多い自家用車通勤者の通勤手当については、手当での平均額が 6,284 円に対して、各人が毎月不足を補填している額の平均は 5,223 円となりました。

< 賃金・放射線業務手当関係の意見を順不同で紹介します。 >

JMTR 改修期間中(5~6年)は直勤務をしないとの理由で直員に支給されている放射線業務手当のランク付けを下げる検討をしているようだ。やめさせるべきだ。

(通勤手当額のコメント)通勤往復 17.6km, 燃費 8km/l として 2.2l/日 消費する。1月の出勤日 22日とすると 6776 円となり、6776-4100=2676 円不足です。

機構が考えている成果主義では、再び動燃のような会社になる。民間はコスト削減で導入しても、機構は公務だからコストは関係ない。不浄な出世競争を煽るだけ。給料を払っている日常業務で評価せず、給料を払っていない、土、日、休日の資格勉強で評価するのは本末転倒ではないか。事実、現場作業は部下やメーカー出向者に任せて、通常勤務中に試験勉強している管理職が居た。数年後、事故やトラブルが生じた際に、成果主義を導入した経営人は責任を取れるのか。退職した後も責任逃れが出来ないようにすべき。

業務評価制度が H19 から始まるらしいが、主立った実績がないのでとても不安である。通常の業務をこなしていても給料が下がってしまうこともありえるのだろうか。

技術員は実績でもっと多くの現場の人を認定すべきだ。資格は大切だが、資格だけでなく、長年貢献された人は課長の判断でもっと認定してやらないとかわいそう。

旧サイクル職員との比較で技術員の認定基準に納得いかない。同年齢にも関わらず、取得資格、外部発表等、同等の経歴であるのに、なぜ旧原研職員は認定されないのか。

賃金が上がらないので士気が下がる。

振休制度を超勤に替えられるようにしてほしい。

今年4月に技術員に認定され、技術員手当を支給されたが、7月技術副主管になったら技術員手当はなくなり、専門職務手当を支給された。しかし、超勤金額がその分減って、結局、総支給額が下がってしまった。(約 - 35,000 円: 技術員手当分 + 放射線業務手当)

ボーナスが旧原研だけ下げられてサイクル側はそのまま、ゆるされない。

旧サイクル側との差をなんとかして。 - 賃金

現場で働く者をムシしていると思えない - 放射線業務手当

新人事評価制度により賃金格差の拡大が心配

放射線業務手当、管理区域に入ればいい、制御室の作業は認めない、ということではおかしい。作業の内容によって与えられるべき。

少なくとも旧原研の放射線業務手当は責任手当であって、危険手当ではないと思います。危険手当があってもよいですが、責任手当もあるべきです。

放射線業務手当は日管理でなくて、月管理の定額制になるようにしてほしい。

あゆみ速報にもありましたが、放射線業務手当が「管理区域の入域手当」となるなら、チョットとした要件で入域するのが心苦しく、申請書にも書かなくなる。予算がないのなら、減額となっても責任手当としての放射線業務手当であって欲しい。それなら気兼ねなく入域できるし、何より非常に面倒な申請書を書かずに済む。その方が現場も事務も楽だし、効率が良いのでは?

技術員について、ある課室では同期を推薦しているが、自分は推薦したかどうか聞かされていない。推薦のはっきりした基準を示してくれないと努力していてもやる気がなくなってしまう。

「放射線業務手当」の話には頭がくる。もう管理区域には入りたくない。ここ数年仕事量は増え、賃金は減る感じ、だんだんやる気がなくなってきた

放射線業務手当は被ばく手当ではないことをアピールして下さい。

放射線業務手当を日単位にするのはすっきりするので賛成。しかし、一日何時間とか対象業務などがまだあいまいだと思う。

民間の原発の運転員は、手当がつくので10年も運転員をやると家が建つと、おとなりの原発の人が言ってます。規模の違いはあるかも知れませんが、もんじゅや HTTR の運転員が支給出来ない放射線業務手当なんて意味がない。

人事評価制度は旧サイクルのものに近いのが提案されているようだが、大失敗の連続のサイクル流をやっとうまくいくはずがない。そういうものを提案すること自体、何の反省もしていないということ。

放射線業務手当は職種により支給すべきで、管理区域に入ったとか入らないとかの手当ではない。

- - - その他の意見などは、今後適宜紹介するつもりです。 - - - - -

以下の署名に取り組みます。一次集約を11月6日組合事務所とします。

1、布川事件に関する要請署名

要請先：東京高等裁判所

依頼元：布川事件・桜井昌司さん杉山卓男さんを守る茨城の会

1967年、茨城県利根町で起きた強盗殺人事件に関する要請署名です。桜井昌司さんと杉山卓男さんが自白強要の結果無期懲役にされました。その再審理を円滑に進めてくださいと要請する署名です。

2、公務員の退職年金・退職金の切り下げに反対する署名。

要請先：人事院

依頼元：公務労組連絡会

国家公務員の退職手当及び退職年金が切り下げられようとしています。

公務員は公共の利益のための奉仕者として一定の処遇が保障されなければなりません。また、公務員の処遇の切り下げはわれわれ独立行政法人職員にとってもひとつごとではありません。自分たちの問題として署名に協力してください。

3、ゆきとどいた教育をすすめ、ゆとりと安心のある学校をつくるために、

30人学級の早期実現、教育予算の増額、父母負担軽減を求める請願署名

要請先：茨城県議会、

衆議院・参議院

依頼元：民主教育をすすめる茨城県民会議

教育は未来をささえる基礎です。表記の実現のため署名に協力してください。

茨城の空に米軍機はいりません 10・21 県民集会

今年の10・21集会は米軍機の百里基地訓練計画の撤回を中心要求として行なわれます。

10月21日(土)午後1時半開会～4時

小美玉市玉里総合文化センターホール・コスモス(小美玉市高崎291-3)

講演「米軍来るな」全国の運動と百里の取り組み

講師：内藤 功 弁護士(百里弁護団長)

連帯挨拶

新倉泰雄氏(原子力空母の横須賀配備阻止三浦半島連絡会事務局長代行)

経過・運動方針の報告と各団体地域の取り組みの交流

主催 米軍機来るな茨城実行委員会(連絡先：茨城平和委員会)

先の6月、機構は労組の反対を押して、課長代理昇格審査に面接を強行導入しました。その面接を受けた組合員からの投稿です。執行部の手違いによりあゆみ速報掲載が遅れました。ごめんなさい。

投稿：話題の面接を受ける 組合員 T生

いやー、意外でした。

34年目にして、私のところにもお鉢が回ってきたのです。これだけでも赤飯物でしたが、ここは冷静に対処。現在、私は6級総括主査であるわけですが、統合後、曖昧な立場なんです、これ。放射線業務手当の時のように、後から返せとなったら「やべー」ということで、身分を明らかにさせたいという意味で、応募してみたら面接まで当たったと言うわけ。

でも、何せ、よく考えると労組との合意のないまま強引に実施するというのですから、まともなものでないことは明らか。「どうすっぺ」と執行員に相談したところ、「当面、組合員に対して面接拒否などを指示することは控えます」との「あゆみ速報」が出ているよと教えられ、「恐る恐る受け」で見ることになりました。何せ、こういったものは初めてなもので。

6月12日、月曜日、16時25分から本部(旧JNC東海事務棟?)一階会議室で20分程やっておりました。始めに私の所属と名前を「述べるように」との控え室据え置き「面接手順書」通りとりかかったのですが、三名の審査委員の方々が「どこのだれべー」で「どのような審査能力を持ち合わせている」のかさっぱり不明のまま、本題に入ろうとするものですから、私はすっかり慌てふためいてしまいました。「すいません、こちらの方々はどなたでしょうか。所属とお名前ぐらい教えて頂きたいのですが」と三度程でしたでしょうか、執拗にお願いしました所、物分りの良い委員さんが一名おりまして、「紹介したらいいじゃないですか」と事務局の人事部に促してくださいましたので、何とか事なく、いや委員の方々と私に多大の不快感を与えたのみで済みました。委員は、東京事務所長と核サ研(核燃料サイクル研究所)計画室長、それから高温工学試験研究炉開発部長、以上三名の方々でした。事務局は人事部員S氏、大洗人事担当M氏。

組織の骨の一部になる人たちを集約する作業であろうから、原子力平和利用三原則についてとか、原子力の平和利用を進めていく上で核兵器の廃絶にイニシャチブを取っていくことがもっとも重要だとか、さぞ基本的なことが確認されるのかと勝手に当方で考えて行ったのですが、細かいことではばかりで「がっかりしました」。

日本の所有するプルトニウムは40トン近い、これは5キロで核弾頭1個分とすると約8000個分に当たる勘定。ここにきて憲法九条第二項を変えて軍隊を持てるようにすると政府は具体的行動に出ている、これでは、今後諸外国との緊張が高まっていくばかりと心配性の私。

底で生きている者としては、底の人の平和に役立つ働きをしたい。底の人の役に立つ原子力の平和利用であって欲しいと願うのです。